

1. 実況上の着目点

① 前線が東シナ海～奄美地方～小笠原の近海にほとんど停滞。前線近傍の東シナ海～日本の南では、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨を解析。また、前線の北側を中心に吹走距離の長い東よりまたは北よりのやや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしけている所がある。

② 500hPa 5580m付近のトラフに対応する低気圧が日本海西部を東北東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 500hPa 5820m付近のトラフに対

応して、25日夜までに1項①の前線上の日本の南に低気圧が発生して東北東進し、27日にかけて日本の東を北東へ進み、南西諸島付近の前線は南下する。前線や低気圧周辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。これまでの大雨で地盤の緩んでいる所があることや本州の南岸付近には湿った東よりの風が流入して沿岸前線が形成されて降水を強める可能性があることに留意。また、前線や低気圧の周辺ではやや強い風や強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなりしける所がある。南西諸島と西～東日本では26日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。南西諸島と東日本では27日にかけて、西日本では26日にかけて、強風や高波に注意。

② アムール川中流域にある500hPa 5280m付近で-40℃以下の寒気を伴う寒冷渦が深まりながら27日にかけて沿海州付近に進み、周辺ではスケールの大きなトラフが深まる。この中で1項②の低気圧は27日にかけて日本海を北東へ進む。26日朝までに、500hPa 5700m付近の強風軸に対応する前線を伴う別の低気圧が三陸沖に発生して北上。27日は、この低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、本州付近は西高東低の気圧配置となり、シアーラインが東～北日本を通過する。低気圧や前線及びシアーラインに向かう下層暖湿気に加えて上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所や、低気圧や前線の北側の東よりの強い風で湿った空気が流入して大雨となる所がある。北海道地方では27日は次第に雪に変わる所もある。また、低気圧及び前線の近傍や西高東低の気圧配置の影響で強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北日本では、26～27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風、高波に注意・警戒。西～東日本では27日は、強風や高波に注意。北日本では26～27日は、東日本では27日は、落雷や突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：東海・近畿120、伊豆諸島100mm。

② 波浪(明日まで)：沖縄・伊豆諸島・北海道4m、その他広い範囲で3m。

③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

